

## 第8回 ならやま まほろば新蕎麦祭り

### 29年度新蕎麦祭りレポート

ならやま・そば文化クラブ 寺田 孝

11月30日、第8回まほろば新蕎麦祭りが賑やかに開催された。心配されたお天気も曇り空ではあるが暖かく穏やかな日和となる。昨年同様80人が参加される大盛会となった。

午前11時過ぎ、あづま屋では「新そば」の旗がひらめく中で、そばクラブ会員による蕎麦打ちの実技が披露される。

会場には、今年も「ならやま景観活動とそば作り」の写真パネルが展示され、関心を集めている。



午前11時20分、朝9時から「生涯学習センター」で、田辺師範とクラブのメンバーの5人で打ちあげた新蕎麦が到着。打ち立ての蕎麦は、待ち構えた茹で方が、2基の大釜で手早く茹でて氷水で締める。朝から掛かっていた天婦羅やニシンもそろって、準備万端OK。



12時10分、鈴木会長のご挨拶が始まる。「新蕎麦祭りも第8回を迎えました。これから名前を“まほろば新蕎麦祭り”にしたらどうでしょう」。続いて、「そば文化クラブ」古川会長のお礼の言葉で、スタート。早速、配膳場に長蛇の列ができる。

何しろ大人数でもあり、スピードが命。そばクラブ会員総出で、ならやま産の打ち立て新蕎麦を次々と茹で上げ、天ぷら付き「ぶっかけ蕎麦」や暖かい「ニシン蕎麦」で供していく。

「うん、おいしい!」「最高!」の声。思わず心の中でガッツポーズ。そば米の「そば雑炊」、ネギたっぷり「そばのチヂミ」もなかなかの好評だ。



そろそろ満腹の潮時を見はからって、恒例の「新そば収穫量当てクイズ」の表彰が始まる。入賞者15人には、田中さん手作りの来年の干支の置物などの賞品が、優勝された山本さん、井戸さん、小島さんの3名の方には、年末の蕎麦打ち会へのご招待が披露されて、祭りは最高潮に達した。

締め括りは、「美しいならやまの風景と、自然の恵みを満喫した一日」との阿部さんの挨拶で、新蕎麦祭りはめでたくお開きとなった。

今年は、「荒神の里・笠そば」で蕎麦栽培のコツを勉強しなおし、土づくり、施肥の作業を改善して万全を期した。生育は順調だったが、10月の雨と台風で、残念ながら収量は48kgに止まり「収量100キロ」の夢はまた来年に持越した。

「そば文化クラブ」は、ならやまの自然の中で、「そば栽培からそば打ちまで」の夢に取り組んできました。恵まれた環境に感謝し、「奈良・人と自然の会」に貢献できるよう引き続き努力したい。今後とも皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

(ご参考)

- ・新蕎麦祭りで準備した蕎麦は、150人分
- ・祭り収支は、+6,752円
- ・そば粉はそばクラブで買取り15,492円
- ・合計22,244円を「ほのぼの基金」へ寄付